

## 令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人九州工業大学

### 1 全体評価

九州工業大学は、開学以来の理念である「技術に堪能なる士君子」の養成を継承し、多様化・複雑化する社会的要請に応え、産業発展に資する人材を社会に輩出するとともに、学術の高度化と新技術の創出に貢献する工学系総合大学を目指している。第3期中期目標期間においては、海外大学等との連携を深めグローバル時代に相応しい大学の機能強化を行い、技術の革新や社会変化にも対応できる高度な専門力と豊かな教養を備えたグローバル・エンジニアを養成するとともに、研究力を高め地域及び我が国の産業の国際競争力を強化する新技術と新産業分野（イノベーション）の創出に寄与すること等を基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、職員やキャンパスを超えた連携を通じて若手教職員の視点を生かし、大学や社会が抱える課題解決を図る「若手工学アカデミー」を設置するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画に取り組んでいることが認められる。

#### （「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和2年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- AIロボティクスの技術開発と事業創造のための経営知識を兼ね備えた高度経営人材育成を目指す「ロボティクスシンセシス&マネジメントコース」が「産業界との協働による教育プログラム」として、選定された結果、「産業界との協働による教育プログラム」が合計で6プログラムとなっている。（ユニット「教育機能強化による社会的な質保証システムのための全国的な教育拠点の形成」に関する取組）
- 大学独自にオンライン開催した国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）新技術説明会で7つの特許シーズを出展し、産業界で関心の高い技術分野における研究者に知財活動への協力の働きかけ等を行い、12名の新たな研究者の発明の発掘を行った結果として、令和2年度の特許単独出願件数は前年度実績を上回る35件を確保している。（ユニット「連携の高度化による産学連携研究の活性化及び国際共同研究の強化」に関する取組）

## 2 項目別評価

## &lt;評価結果の概況&gt;

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

## 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

## ○ 「若手工学アカデミー」の実施

教職協働の取組の一環として、40歳未満の若手教職員（教育職員、事務職員、技術職員）によって構成される「若手工学アカデミー」を設置し、職種やキャンパスを越えた連携を通じて、若手教職員の視点を生かし、大学や社会が抱える問題の解決を図っている。令和2年度には、「2040年の九工大を考える」として、2040年に在籍していると考えられる若手職員が将来ビジョンの策定にコミットすることを目的としてワールドカフェ形式のワークショップを実施し、延べ56名が参加している。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

- ①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

**(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

- ①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

**(4) その他業務運営に関する重要目標**

- ①施設設備の整備・活用 ②安全管理 ③法令遵守 ④男女共同参画

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

### ○ 新しい産学連携としてのインターンシップ型アルバイトの実施

「学生教育」、「企業との連携」に力を入れている大学と「学生採用」、「大学との連携」を期待する企業ニーズをマッチングさせることを目的とした新しい産学連携の取組として、「インターンシップ型アルバイト事業」を令和2年度より実施している。実際に授業で習得した知識・スキルを生かせるだけでなく、社会の現場で職業選択、適性を見極めを体験できるというインターンシップのメリットのほか、給与による学生の経済支援としての効果も期待できる。